

## 新年のごあいさつ

# 協創によるまちづくり、そして「まち育て」へ

あけましておめでとうございます。市民のみなさまにおかれましては、穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの5類感染症への移行から1年が経ち、社会経済活動に活気が戻りつつある一方、不安定な世界情勢による物価高騰や円安の影響もあり、依然先行きが不透明な状況が続いているところです。

こうした中、本市では明るいニュースも多数ありました。昨年4月、官民連携手法として全国初となるLABVプロジェクトにおいて、商工センター跡地でリーディング施設となる「Aスクエア」が供用開始となりました。市民活動センターや出張所などの公共機能をはじめ、産学官金の様々な機能が集約されており、市民のみなさまにもしっかり活用していただくことで、新たな人の流れや連携が生まれ、賑わいの創出やまちの価値を高めていく原動力となることを期待しています。

また、昨年9月には「地区運営協議会(RMO)」が市内全11地区においてスタートしました。地域のみなさまが主体となって、地域の課題解決に向けて取組を実践されることは、持続可能な地域づくりには欠かせないものであり、行政としても引き続き最善の支援に努めていきたいと考えています。

さらに、パリパラリンピックの自転車競技では、本市のスポーツによるまちづくりの取組で幅広い世代の市民と交流のある、パラサイクリング日本代表の杉浦佳子選手が金メダルを獲得し、飛び切りの笑顔と感動を届けてくれました。杉浦選手には、ふるさと大使第1号にも就任いただいております。今後は今以上に本市をPRしていただくとともに、つながりの輪が広がることを期待しています。

さて、早いもので私が市長に就任してから7年8か月が経ち、2期目の任期も4か月を残すところとなりました。就任以降、「協創によるまちづくり」を掲げ、持続可能な地域社会づくりに向けた取組を進めておりますが、令和7年度は、山陽小野田市第二次総合計画中期基本計画の最終年度であり、

「地域を創る」「ひとを創る」「まちの価値を創る」の3つの「創る」を柱として取り組んできた施策が具現化していく一年になると考えています。

とりわけ、「きらら交流館」を、観光交流施設「海辺の駅 そらうみ」へとリニューアルするための改修工事に加え、日の出保育園の新園舎についても建築工事を開始する予定であり、交流人口の増加や賑わいの創出、子育て環境の更なる充実につながる取組として、事業を推進してまいります。

今年の私のキーワードは「一円融合」です。「一円融合」とは、あらゆることを一つの円に入れて、すべてのものが互いに働き合い一体になるという二宮尊徳の言葉で、本市のまちづくりにおいて根幹となる「協創」にも通じる考え方です。市と民間企業等との共同プロジェクトであるLABVの推進や、地区運営協議会による自主的な地域運営とその支援など、多くのみなさま方との強い結びつきの中で「協創によるまちづくり」をより一層加速させ、まちの持続可能性を高めていくとともに、活力と笑顔あふれるまちの実現に向けて、みなさまとともにまちを育ててまいります。

本年も市民のみなさまの「住みよい暮らし」を創り上げ、「スマイルシティ山陽小野田」の実現に向けて全力で取り組んでまいりますので、みなさまのご支援、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

2025年、令和7年が市民のみなさまにとりまして、希望に満ちた輝かしい1年となりますことをお祈りいたします。

山陽小野田市長 藤田 剛二

